

| | | | | | | |
|----------------|---|----|----|------|---|-------------------------------|
| 対象学科・専攻 | 建築学専攻 | | | | 担当教員 | 熊谷昌彦・稲田祐二・玉井孝幸・高増佳子・細田智久・前原勝樹 |
| 授業科目名 | 技術表現技法 | | | | 科目コード | |
| 学年 | 1年 | | 2年 | | | |
| 開講時期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 合計単位数 | |
| 単位数 | | 1 | | 1 | 2 | |
| 区分 | 専門科目 必修 | | | | 授業の形態 | 演習 |
| 授業概要 | 本演習は、特別研究の成果物である論文、作品の作成、発表を通じて、第三者にその内容をわかり易く、効率的に伝えるプレゼンテーション技法を学ぶ。指導は、特別研究指導教員が中心となつてあたる。 | | | | | |
| 関連する専攻科の学習教育目標 | (E-1) | | | | 関連するJABEE学習教育目標 | (f) |
| 到達目標 | <p>基準1) 研究発表会で発表内容をわかりやすく第三者に説明できているか</p> <p>基準2) 研究発表会の予稿およびポスターがわかりやすく表現されているか</p> <p>基準3) 校外発表ができているか(社会とのコミュニケーション力)</p> | | | | | |
| 授業の進め方とアドバイス | <p>特別研究の指導教員との個別指導を通じて特別研究の内容を発表する中間発表会、学会等の外部発表会、最終発表会の論文作成や発表プレゼンテーションデータの作成を行う。</p> <p>次のような自学自習を30時間以上行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文草案の作成を行う。 ・論文発表用プレゼンテーションデータの作成を行う。 ・発表練習を事前に行う。 | | | | | |
| 授業内容とスケジュール | <p>1年時 第1～14週: ガイダンスおよびプレゼンテーション関連のテキストによる演習 第15週: 特別研究中間発表会</p> <p>2年時 第1～14週: ガイダンスおよびプレゼンテーション関連のテキストによる演習 第15週: 特別研究発表会</p> <p>なお、適当な時期に学会等の外部発表を行う。</p> | | | | | |
| 教科書 | 配布テキストなど | | | | | |
| 参考書 | 特になし | | | | | |
| 関連教科 | 建築学特別研究 | | | | | |
| 基礎知識 | | | | | | |
| 成績の評価方法 | 総合評価割合 | | | | 主査1名(60%)、副査2名(10×2=20%)校外発表会実績(20%)で評価する。評価の内訳は以下の通りである。 到達目標(1)40% 到達目標(2)40% 到達目標(3)20% | |
| | 定期試験 | | | 0% | | |
| | レポート | | | 0% | | |
| | 演習・小テスト | | | 0% | | |
| | その他 | | | 100% | | |
| | | | | | 100% | |
| 備考 | | | | | | |

| | | | | | | |
|----------------|--|-----|----|----|-----------------|----------|
| 対象学科・専攻 | 建築学専攻 | | | | 担当教員 | 細田智久 |
| 授業科目名 | 地域施設計画 | | | | 科目コード | |
| 学年 | 1年 | | 2年 | | | |
| 開講時期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 合計単位数 | |
| 単位数 | | | 2 | | 2 | |
| 区分 | 専門科目 選択 | | | | 授業の形態 | 講義 |
| 授業概要 | 地域施設計画研究における調査方法と分析方法を学び、建築・都市計画全般の研究の実例をあげて、方法の適用のしかたを理解する。 | | | | | |
| 関連する専攻科の学習教育目標 | B-1: 建築に関わる社会的・地域的な視点を養い、よりよい生活空間をその地域の風土を考慮し、機能的に計画・設計できる知識・技術 | | | | 関連するJABEE学習教育目標 | d2: 建築計画 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域施設計画の課題とその社会的背景を理解することができる。 ・地域施設計画における改善点を明らかにするための調査分析の方法を説明することができる。 | | | | | |
| 授業の進め方とアドバイス | <p>講義形式により実施する。</p> <p>地域施設計画に関連する論文や専門雑誌の最新トピックなどを題材とし、施設種別毎に今日問題とされている課題やその改善点、目的の立て方と結論を導き出す手法や調査方法などを学習する。</p> <p>また、次のような自学自習を60時間以上行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を理解するため、予め配布したプリントで予習を行う。 ・授業内容の理解を深めるため、復習を行う。 ・定期試験の準備を行う。 ・実際の地域施設調査を実施した後は、施設調査結果をレポートとして作成する。 <p>細田教員は、月曜 14:35から17:00と金曜 15:35から17:00をオフィスアワーとしているので、質問やアドバイスを受けたい学生は、この時間を中心に教員室までくることが。</p> | | | | | |
| 授業内容とスケジュール | 第1週目: ガイダンス、本科で習った施設分野の確認、建築の職能、新しい用語 第2週目: 図書館計画の詳細 1 第3週目: 図書館計画の詳細 2 第4週目: 図書館を題材とした調査研究手法の解説 1 第5週目: 図書館を題材とした調査研究手法の解説 2 第6週目: 近隣図書館の実測調査、使われ方調査 第7週目: 近隣図書館の実測調査の考察 第8週目: 教育施設計画の詳細 1 第9週目: 教育施設計画の詳細 2 第10週目: 美術館建築の詳細 1 第11週目: 美術館建築の詳細 2 第12週目: 高齢者福祉施設の詳細 1 第13週目: 高齢者福祉施設の詳細 2 第14週目: 劇場計画の詳細 1 第15週目: 劇場計画の詳細 2 | | | | | |
| 教科書 | 講義内容に応じた論文や専門書の抜粋等を適宜配布する | | | | | |
| 参考書 | 建築・都市計画のための調査・分析方法(日本建築学会編、井上書院)、建築雑誌(日本建築学会発行)、日経アーキテクチャー | | | | | |
| 関連教科 | 建築計画(本科3年、4年)、創造設計実習 | | | | | |
| 基礎知識 | 本科の建築計画・都市計画の講義内容 | | | | | |
| 成績の評価方法 | 総合評価割合 | | | | | |
| | 定期試験 | 50% | | | | |
| | レポート | 50% | | | | |
| | 演習・小テスト | 0% | | | | |
| | その他 | 0% | | | | |
| 備考 | 100% | | | | | |

| | | | | | | |
|----------------|---|----|----|------|--|-----------------|
| 対象学科・専攻 | 建築学専攻 | | | | 担当教員 | 熊谷昌彦・細田智久 |
| 授業科目名 | 建築・地域計画実習 | | | | 科目コード | |
| 学年 | 1年 | | 2年 | | | |
| 開講時期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 合計単位数 | |
| 単位数 | | | | 2 | 2 | |
| 区分 | 専門科目 選択 | | | | 授業の形態 | 実習 |
| 授業概要 | 本科における「建築計画」や「都市計画」で学んだ知識を基礎として、具体的なフィールドを対象とした演習を行う。その中で地域がかかえる問題や課題を論理的実践的に解明し探求していく能力と、具体的な地域条件の中に適応し考える創造力、および問題構造や課題や提案についてのプレゼンテーションと表現力を育成する。 | | | | | |
| 関連する専攻科の学習教育目標 | (B-1) (C-1) (C-2) | | | | 関連するJABEE学習教育目標 | (d1) (e) (d(2)) |
| 到達目標 | (1)これまで関連科目で学んだ基礎知識に基づいて、対象地域の現状を的確に把握し解決すべき課題が具体的に把握することができる。 (2)課題が求める解決策について、地域の状況を踏まえて考え提案することができる。 (3)地域の調査を実施し地域居住者に対してヒアリングを実施し、居住者の実態が的確に把握することができる。 | | | | | |
| 授業の進め方とアドバイス | 前半と後半それぞれ1課題、全体で2課題の演習を実施する。 個別の質問等に対する対応は、少人数教育であることと、全員参加の発表質疑を頻繁に実施するため、講義時間中に十分対応できるものとする。 | | | | | |
| 授業内容とスケジュール | 第1週: 第1課題「中心市街地居住地の居住構造を踏まえた居住地再生計画」説明・質疑、諸準備等 第2週: 文献学習・資料収集作業 第3週: 文献学習・資料収集作業・中間レポートの発表質疑 第4週: 対象地域調査を含む課題作成作業・質疑 第5週: 対象地域調査を含む課題作成作業・質疑 第6週: 対象地域調査を含む課題作成作業・質疑 第7週: レポートの提出・発表と質疑 第8週: 第2課題「中心市街地活性化のための地区再整備計画」説明・質疑、諸準備等 第9週: 文献学習・資料収集作業 第10週: 文献学習・資料収集作業・中間レポート発表質疑 第11週: 対象地域調査を含む課題作成作業・質疑 第12週: 対象地域調査を含む課題作成作業・質疑 第13週: 対象地域調査を含む課題作成作業・中間発表質疑 第14週: 対象地域調査を含む課題作成作業・質疑 第15週: レポートの提出・発表と質疑 ※なお課題内容により作業量が多くなると考えられる場合は、いずれか1課題として作業プロセスを組み替え実施する場合がある。 | | | | | |
| 教科書 | なし | | | | | |
| 参考書 | コンパクト建築設計資料集成 | | | | | |
| 関連教科 | 本科の建築計画および都市計画 | | | | | |
| 基礎知識 | | | | | | |
| 成績の評価方法 | 総合評価割合 | | | | 成績の評価は、レポート100%として算出する。その内訳は、レポートの内容と発表質疑内容。 | |
| | 定期試験 | | | 0% | | |
| | レポート | | | 100% | | |
| | 演習・小テスト | | | 0% | | |
| | その他 | | | 0% | | |
| 備考 | | | | | | |

| | | | | | | |
|----------------|--|----|-----------------|------|--|------|
| 対象学科・専攻 | 建築学専攻 | | | | 担当教員 | 金澤雄記 |
| 授業科目名 | 企画デザイン論 | | | | 科目コード | |
| 学年 | 1年 | | 2年 | | | |
| 開講時期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 合計単位数 | |
| 単位数 | | | | 2 | 2 | |
| 区分 | 専門科目 選択 | | | | 授業の形態 | 講義 |
| 授業概要 | <p>建築や都市を計画していく上での基礎段階にあたる「企画」と、それをかたちにしていく「デザイン」について考える。特に公共事業においては、アカウンタビリティ(説明責任)が求められており、調査・企画によって市民のニーズと地域のポテンシャルを発掘し、それに基づくデザインを理解可能なかたちによりコミュニケーションを図っていくことが重要である。</p> <p>この講義では、調査・企画・デザイン・コミュニケーションのプロセスにより、まちづくりなどの人々に直接影響を与えるデザインの運営を行ってもらふ。全体のプロセスを通じて、現地調査の仕方、企画書の書き方、デザインの進め方、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。</p> | | | | | |
| 関連する専攻科の学習教育目標 | B-1 建築に関わる社会的・地域的な視点を養い、よりよい生活空間をその地域の風土を考慮し、機能的に計画・設計できる知識・技術の修得 | | 関連するJABEE学習教育目標 | | e 種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力の修得 | |
| 到達目標 | <p>1. 地域住民などの一般ユーザーの視点を大切にし、理解し易く、機能的な展示空間をデザインできること(B-1)</p> <p>2. CAD、画像処理ソフトやパワーポイントなどのソフトウェアを駆使して、効果的な展示ポスターや展示レイアウトのデザインができること(e)</p> | | | | | |
| 授業の進め方とアドバイス | <p>企画デザイン論では、建築等を計画していく上での基礎段階にあたる「企画」と、それをかたちにしていく「デザイン」についての技術や知識を習得する。</p> <p>本年度は、2地域において空き家活用計画の立案を行う。(隠岐島と大山町or南部町を計画 2014年3月現在)</p> <p>次のような自学自習を60時間以上行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を理解するため、予め配布したプリントで予習すること。 ・授業内容の理解を深めるため、復習を行うこと。 ・原則毎時間、次回に向けて課題を与えるので、レポートを作成すること。 | | | | | |
| 授業内容とスケジュール | <p>第1週: オリエンテーション</p> <p>第2週: 課題1説明</p> <p>第3週: 課題に対する取り組み</p> <p>第4週: 課題に対する取り組み</p> <p>第5週: 中間発表</p> <p>第6週: 課題に対する取り組み</p> <p>第7週: 課題に対する取り組み</p> <p>第8週: 現地での成果発表</p> <p>第9週: 課題2説明</p> <p>第10週: 課題に対する取り組み</p> <p>第11週: 課題に対する取り組み</p> <p>第12週: 中間発表</p> <p>第13週: 課題に対する取り組み</p> <p>第14週: 課題に対する取り組み</p> <p>第15週: 現地での成果発表</p> <p>課題は随時更新する。2014年3月現在</p> | | | | | |
| 教科書 | 企画に必要な資料や過去の記録などは適宜配布する。 | | | | | |
| 参考書 | 企画とプレゼンの技術(日本実業出版社)、企画の教科書(NHK出版) | | | | | |
| 関連教科 | 地域施設計画 | | | | | |
| 基礎知識 | 建築計画および設計製図の分野の知識 | | | | | |
| 成績の評価方法 | 総合評価割合 | | | | 持ち点80点 | |
| | 定期試験 | | | 0% | +課題に対する成果(20点) | |
| | レポート | | | 0% | +(-2点)×欠課数 | |
| | 演習・小テスト | | | 0% | | |
| | その他 | | | 100% | | |
| | | | | | 100% | |
| 備考 | ※スケジュールは、企画実行を優先させるため、進行状況を見て変更することもある | | | | | |

| | | | | | | |
|----------------|---|----|----|------|--|------|
| 対象学科・専攻 | 建築学専攻 | | | | 担当教員 | 稲田祐二 |
| 授業科目名 | 建築構造設計演習 | | | | 科目コード | |
| 学年 | 1年 | | 2年 | | | |
| 開講時期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 合計単位数 | |
| 単位数 | | | 2 | | 2 | |
| 区分 | 専門科目 選択 | | | | 授業の形態 | 演習 |
| 授業概要 | 建築構造系科目の集大成として鉄筋コンクリート造3階建て建築物の構造設計演習を行う。構造計算は手計算による許容応力度法とし、1次設計を基本とする。また、計算結果より建築構造図の作成も行う。 | | | | | |
| 関連する専攻科の学習教育目標 | B-3、C-1 | | | | 関連するJABEE学習教育目標 | d4 |
| 到達目標 | 許容応力度計算法により鉄筋コンクリート造建築物の構造設計ができること。具体的には以下の目標を設定する。 1) 設計用荷重を計算できる。 2) 設計用応力を計算できる。 3) 梁の設計ができる。 4) 柱の設計ができる。 5) スラブの設計ができる。 6) 壁の設計ができる。 7) フーチングの設計ができる。 | | | | | |
| 授業の進め方とアドバイス | 本科の鉄筋コンクリート構造および専攻科の耐震構造論で学習した事項を基礎として、鉄筋コンクリート造建築物の構造設計ができることを目標としている。従って、本科鉄筋コンクリート構造で学習した内容を十分に復習し、理解しておくことが重要である。また、力学の基礎知識も重要なので、構造力学、構造計画、基礎構造、耐震構造論で学習した事項を復習しておくこと。日々の演習の積み上げが重要な教科である。 本科目は、演習科目なので自学自習を30時間以上行うこと。 自学自習時間は、授業内容に従い構造計算書および構造図を作成すること。 なお、質問は、昼休み(12:35-13:20)および会議の無い日の放課後(19:00まで)稲田研究室で受け付ける。また、メールでも随時受け付ける(E-mail:inada@yonago-k.ac.jp)。 | | | | | |
| 授業内容とスケジュール | 1回(前半)ガイダンス:課題説明 1回(後半)建物概要、設計方針概要、使用材料の許容応力度 2回(前半)伏図、ラーメン図 2回(後半)仮定荷重 3回(前半)ラーメン材の剛比 3回(後半)C、Mo、Qoの算定 4回(前半)柱軸力の算定 4回(後半)地震力の算定 5回(前半)鉛直応力の算定(x方向ラーメン) 5回(後半)鉛直応力の算定(y方向ラーメン) 6回(前半)鉛直応力図の作成 6回(後半)地震時応力の算定:D値 7回(前半)地震時応力の算定:半曲点高比 7回(後半)地震時応力の算定:応力図の作成 8回(前半)層間変形角と剛性率・偏心率の計算 8回(後半)断面算定(梁) 9回(前半)断面算定(梁) 9回(後半)断面算定(柱) 10回(前半)断面算定(柱) 10回(後半)スラブの設計 11回(前半)小梁の設計 11回(後半)フーチングの設計 12回(前半)図面作成(伏図) 12回(後半)図面作成(伏図) 13回(前半)図面作成(軸組図) 13回(後半)図面作成(軸組図) 14回(前半)図面作成(リスト) 14回(後半)図面作成(リスト) 15回(前半)図面作成(配筋詳細図) 15回(後半)図面作成(配筋詳細図) | | | | | |
| 教科書 | 日本建築学会:鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説、小国社 | | | | | |
| 参考書 | 林静夫、清水明之:鉄筋コンクリート構造、森北出版 | | | | | |
| 関連教科 | 鉄筋コンクリート構造、基礎構造、構造計画、耐震構造論、構造力学Ⅲ、構造解析、構造解析学特論、構造制御論 | | | | | |
| 基礎知識 | 力学、数学、製図 | | | | | |
| 成績の評価方法 | 総合評価割合 | | | | 成績評価に関わるその他の内訳 構造計算書:60% 建築構造図:40% | |
| | 定期試験 | | | 0% | | |
| | レポート | | | 0% | | |
| | 演習・小テスト | | | 0% | | |
| | その他 | | | 100% | | |
| 備考 | | | | | 100% | |

| | | | | | | |
|----------------|---|----|----|-----|-------------------------|------|
| 対象学科・専攻 | 建築学専攻 | | | | 担当教員 | 北農幸生 |
| 授業科目名 | 構造制御論 | | | | 科目コード | |
| 学年 | 1年 | | 2年 | | | |
| 開講時期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 合計単位数 | |
| 単位数 | | | 2 | | 2 | |
| 区分 | 専門科目 選択 | | | | 授業の形態 | 講義 |
| 授業概要 | <p>本科における建築構造設計、解析の科目においては仮定した構造物に対して想定された外荷重が作用した場合の応力度の算定に重点がおかれており、変形量などは計算の結果求められる量として捉えられています。本論ではこの逆の考え方の一つを学習します。すなわち、設計する構造物の外乱に対する応答を制御することを可能にする技術として、免震構造・制振構造の基礎原理を学習すると共に、それらの建築構造物への応用についても学習します。</p> | | | | | |
| 関連する専攻科の学習教育目標 | B-3 | | | | 関連するJABEE学習教育目標 | d4 |
| 到達目標 | <p>建築骨組構造物の解析手法と建築力学の基礎を理解し、免震構造・制振構造の原理が説明できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 質点系の運動方程式が理解できる。 2) 地震応答解析手法が理解できる。 3) 応答スペクトルの概念が理解できる。 4) 解析ソフトを用いて応答スペクトルを描くことができる。 5) 応答スペクトルを用いて免震構造・制振構造の原理が説明できる。 | | | | | |
| 授業の進め方とアドバイス | <p>本科の構造力学で学習した事項を基礎とし、免震構造・制振構造の原理が説明できることを目標とします。従って、本科の構造力学で学習した内容を十分に復習し、理解しておくことが重要です。また、数学や物理の基礎知識も重要であるので、不安な場合は復習しておくこと。日々の学習の積み上げが重要な教科です。</p> <p>なお、質問はオフィスアワー(火・金曜の14:35～17:00)に研究室で受け付けるとともに、メールでも随時受け付けます(E-mail:kitano@yonago-k.ac.jp)。</p> <p>また、次のような自学自習を60時間以上行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を理解するため、予め配布した教科書で予習する。 ・授業内容の理解を深めるため、復習する。 ・授業内容を参考に、演習課題およびレポート作成に取り組む。 | | | | | |
| 授業内容とスケジュール | <ol style="list-style-type: none"> 1) ガイダンス、1自由度系の線形応答: 構造物のモデル化 2) 1自由度系の線形応答: 非減衰自由振動 3) 1自由度系の線形応答: 減衰自由振動 4) 1自由度系の線形応答: 調和外力に対する応答 5) 1自由度系の線形応答: 種々の過渡外力に対する応答 6) 1自由度系の線形応答: 地震応答スペクトル 7) 1自由度系の線形応答: 振動とエネルギー 8) 1自由度系の線形応答: 等価粘性減衰 9) 多自由度系の線形応答: モードの直交性 10) 多自由度系の線形応答: モード重乗法 11) 応答の数値解析: 数値積分法1 12) 応答の数値解析: 数値積分法2 13) 応答スペクトルを用いた建築構造物の応答制御の計画手法 14) 免震構造・制振構造の原理1 15) 免震構造・制振構造の原理2 <p>試験</p> | | | | | |
| 教科書 | 柴田明德「最新耐震構造解析」森北出版 | | | | | |
| 参考書 | 大崎順彦「建築振動理論」彰国社 | | | | | |
| 関連教科 | 構造力学, 数学, 物理 | | | | | |
| 基礎知識 | 構造力学, 数学 | | | | | |
| 成績の評価方法 | 総合評価割合 | | | | 試験50%, レポート50%の比率で評価する。 | |
| | 定期試験 | | | 50% | | |
| | レポート | | | 50% | | |
| | 演習・小テスト | | | 0% | | |
| | その他 | | | 0% | | |
| 備考 | | | | | 100% | |

| | | | | | | |
|----------------|--|----|----|------|---|-------------|
| 対象学科・専攻 | 建築学専攻 | | | | 担当教員 | 玉井孝幸 |
| 授業科目名 | 建築生産特論 | | | | 科目コード | |
| 学年 | 1年 | | 2年 | | | |
| 開講時期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 合計単位数 | |
| 単位数 | | | 2 | | 2 | |
| 区分 | 専門科目 選択 | | | | 授業の形態 | 講義 |
| 授業概要 | 本科で学習した知識を応用し、設計図書を元に施工計画を立案する。また、立案した施工計画について発表し、ディスカッションを行い、現実性、合理性、生産性などの面から評価を行う。 | | | | | |
| 関連する専攻科の学習教育目標 | (B-4) | | | | 関連するJABEE学習教育目標 | (d5)、(d(2)) |
| 到達目標 | 建築の施工計画にかかわる、社会的な背景と、生産システムの概要について理解していること。 建築生産の構法の選定ができること。 | | | | | |
| 授業の進め方とアドバイス | 前半は、基本的な構法について事例紹介や、仕組み・背景などについて説明を行う。後半は実際の超高層建築物の設計図書を用い、施工計画を立案する。 また、次のような自学自習を60時間以上行う事。 ・授業内容の理解を深めるため、新聞などにより社会時事に関する情報を読むこと。 ・課題に対するレポートの作成すること。 ・課題レポートの発表のための準備(発表練習など)を行うこと。 ・課題レポートの発表後、質疑された、指摘された部分について復習すること | | | | | |
| 授業内容とスケジュール | 第1回 ガイダンス 第2回 設計書の説明、付帯条件の明確化 第3回 近年の工業化手法、省力化構法 第4回 積層構法 第5回 鉄筋先組み構法 第6回 PCa構法 第7回 工程の組立て方法 第8回 通行車両、道路規制、運搬規制 第9回 近隣説明・折衝、風害 第10回 施工計画の事例紹介 第11回 事例研究(1) 第12回 事例研究(2) 第13回 施工計画立案(1) 第14回 施工計画立案(2) 第15回 施工計画発表・提出 | | | | | |
| 教科書 | 講義内容に応じた論文や専門書の抜粋等を適宜配布する | | | | | |
| 参考書 | 東洋書店。加賀秀治監修、「次世代建築生産」 | | | | | |
| 関連教科 | | | | | | |
| 基礎知識 | 本科の建築生産、建築材料、建築構造1、2の知識 | | | | | |
| 成績の評価方法 | 総合評価割合 | | | | 期末試験は行わないませんが、授業を行ったすべての範囲に対する課題を題しますので、レポートを提出してもらいます。 | |
| | 定期試験 | | | 0% | | |
| | レポート | | | 100% | | |
| | 演習・小テスト | | | 0% | | |
| | その他 | | | 0% | | |
| 備考 | | | | | 100% | |